

機知 と 色彩

魅惑のフランス音楽



TAKAMATSU
SYMPHONY
ORCHESTRA
Since 1951

高松交響楽団 第121回定期演奏会

2019 6.16 [日] 開演 14:00

香川県県民ホール 大ホール
[レクザムホール]

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の演奏会では、グノー・ビゼー・ラヴェルの3人のフランスの作曲家による作品の数々を演奏いたします。

指揮者には、香川県出身で、2017年にも当団に客演され、私どもが全面的に協力しております「KJO かがわ・ジュニアフィル」の指揮者陣も務める松下京介氏を招聘するとともに、ソリストには、2018年3月開催の第4回「高松国際ピアノコンクール」で、3位を受賞したピアニスト 伏木唯氏を招聘しました。

機知と色彩に富んだ魅惑のフランス音楽の数々を、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

歌劇「ファウスト」より バレエ音楽 (C.グノー)

グノーは、「フランス近代歌曲の父」と呼ばれ、美しく優雅な旋律、やさしさと色彩感に満ちた沢山の音楽をのこしました。文豪ゲーテの同名小説を元にした歌劇「ファウスト」は、グノーの魅力が一杯に詰まった代表作です。

「ファウストはメフィスト（悪魔）につれられ、ブロッケン山まで来た。初めファウストは不安になり逃げ帰ろうとするが、メフィストに『朝まで飲み明かそう』と引き止められ、宴に加わる。」

バレエ音楽は歌劇中のこのような場面で演奏され、酒宴の中での踊りの数々が表現されます。

- I ヌビアの踊り 金管楽器の威圧的な前奏に続き、優雅なワルツを弦楽器が奏します。
- II クレオパトラと黄金の杯 ゆったりとたゆたうように奏される落ち着いた表情の曲です。
- III ヌビアの奴隷の踊り どこか皮肉で滑稽な調子の旋律から始まり、だんだん激しくなってゆきます。
- IV クレオパトラとその奴隷たちの踊り 絢爛豪華な華やかな響きがクレオパトラを表します。彼女と取り巻きの奴隷達の行進曲です。
- V トロイの娘たちの踊り ハープがさざ波のような伴奏を奏で、弦楽器群の優雅な旋律が美しい娘を描きます。
- VI 鏡の踊り 8分音符2つ+6連符との独特のリズムが、どこかぎくしゃくとした面白い印象を与える舞曲です。
- VII フリネの踊り 一音一音叩きつける様な激しいリズムの主部と、それと対比を為すメロディックな部分から成りますが、どんどんと激しさを増し、最後を飾ります。



シャルル・グノー
(1818-1893)

歌劇「カルメン」セレクション (G.ビゼー)

歌劇「カルメン」はフランスの作家メリメの小説をもとに、フランスの作曲家ビゼーが曲を付けたフランス語の歌劇です。ここまでフランス尽くしですが舞台はスペイン。恋多きジプシーの女カルメンと竜騎兵ホセ、闘牛士エスカミーリョの悲恋の物語です。「カルメン」は歌劇としてはもちろん声楽抜きの管弦楽曲としても人気があり、音楽学者ホフマンが編集した第1・第2組曲が有名です。曲を抜粋して自由な組み合わせで演奏することが多く、本日の演奏会も各組曲からの抜粋でお送りします。

闘牛士 2幕でエスカミーリョが歌う「闘牛士の歌」と、4幕の闘技場の行進曲で構成された、歌劇の開幕を飾る華やかな曲です。**前奏曲** 「闘牛士」に続いて演奏されます。先程までの快活な雰囲気を一気に裏切り、これから起こる悲劇を予感させます。**アラゴネーズ** オーボエの哀愁漂う旋律が印象的な、スペイン色たっぷりの舞曲です。**ハバネラ** カルメンが自分に無関心なホセを誘惑する歌です。チェロのハバネラのリズムに乗り、メロディが連綿と紡がれます。**セギディリヤ** 騒ぎを起こして牢送りとなったカルメンが護送役のホセを誘う歌です。木管楽器を中心に可愛らしくも陰のある旋律を奏でます。**間奏曲** ハープの伴奏でフルートが穏やかに歌い、同じビゼーの作品「アルルの女」のメヌエットを彷彿とさせます。**アルカラの竜騎兵** 素朴で力強い、ファゴットらしさの光る曲です。**ジプシーの踊り** 酒場でカルメン達が歌い踊る場面です。弦楽器のピチカートとフルートのエキゾチックな旋律で静かに始まりますが徐々にテンポアップし、最後は興奮が最高潮に達して終わります。



ジョルジュ・ビゼー
(1838-1875)

左手のためのピアノ協奏曲 (M.ラヴェル)

「音の錬金術師」「管弦楽法の魔術師」などとも呼ばれたラヴェルは、熟練した技術の持ち主であると同時に、時代として極めて斬新な和声法、楽曲構成法、楽器類の音色の用い方などにより西洋音楽に新たな窓を開いた作曲家です。

この曲の作曲動機は、オーストリアのピアニスト、パウル・ヴィゲンシュタインからの委嘱にありました。このピアニストは、第一次世界大戦に従軍して、ロシアで右腕を失い、その後左手一本で立つ事を決意し、諸国の著名作曲家に依頼して左手のためのレパートリーを増やす事に専念していました。ラヴェルはこの協奏曲の作曲依頼を受け入ると、先輩作曲家サン＝サーンスのピアノ独奏曲「左手のための六つの練習曲」を参照し研究しました。「左手のみのために書かれたからといって楽曲全体の響きが薄いという感じは与えたくない」と考え、ペダルの効果を利用した手の跳躍をはじめ、あらゆる限りの技巧を凝らしてピアノ独奏部を書き上げました。この曲は楽章の切れ目を持たないファンタジー風の作りで出来ており、叙情的な音楽、ジャズ、スケルツォ、行進曲など、異なる様式の音楽が並置されています。全体的に可憐なイメージの1部に始まり、2部ではジャズ的にピアノが演奏され、途中1部を思わせる美しい旋律がありながらもユーモアに溢れています。3部では、1部の回帰主題が奏されますが、すぐにピアノの非常に長いカデンツァになり、ラヴェル独特の精緻な技巧が左手のみで超絶的に演奏されます。最後は2部の動きが再度繰り返されて、一瞬のうちに終わります。



モーリス・ラヴェル
(1875-1937)

バレエ「ダフニスとクロエ」第2組曲 (M.ラヴェル)

曲名となっている「ダフニスとクロエ」は、ギリシャの古い抒情詩で、ラヴェルは、これに基づくバレエの音楽を作曲しました。このバレエ音楽は2つの組曲にまとめられており、今回演奏するのは、そのうち第2組曲となります。

ダフニス、クロエは、羊飼いの青年と娘の名前で、バレエのあらすじは、次のようなものです。牧神パンの岩の近くでダフニス、クロエら羊飼いの若者たちが戯れているところを海賊が襲い、クロエは海賊たちにさらわれてしまいます。ダフニスは、パンに救いを求め祈ります。その夜、海賊たちが酒宴をひらき騒いでいるところに、パンが現れ、海賊たちを蹴散らし、クロエを救い出します。その後、夜が明けて・・・。



第2組曲は、この夜明けの場面から始まります。細かな音の流れと、雄大なフレーズで、微かにせせらぎの音が響くなか、徐々に夜が明けていく情景が、目に浮かぶように表現されています。この音楽の高まりは、やがてダフニスとクロエの再会と抱擁の場面の一つのクライマックスを迎えた後、次第に収まっていきます。そして、老羊飼いの語りが静かに一定のリズムの反復で始まります。老羊飼いは、ダフニスとクロエに、パンがなぜクロエを救ったかを聞かせます。パンがクロエを救ったのは、クロエに、パンがかつて愛したニンフ（妖精）を見たからでした。パンがニンフに愛を告白し拒絶された過去が物語られていきます。この回想の後、ダフニスとクロエは、祭壇の前でパンへの感謝と二人の永遠の愛を誓うのです。そこへ、突然、若者達が乱入してきます。ダフニスとクロエを交えた若者達の陽気な踊りは5拍子の特徴的なリズムで、この熱狂的な歓喜の乱舞の中、物語は閉じます。

【高専倶楽部法人会員】

社会福祉法人 サマリヤ
四国岩谷産業株式会社
香川トヨベツト株式会社
ネットヨタ高松 株式会社



スタインウェイピアノ 香川唯一正規特約店
有限会社 高松ピアノ工房
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム／
高松市木太町7区3685 TEL:087-833-6049
■工場／
高松市木太町7区3464 TEL:087-833-9433

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら

株式会社 よんでんメディアワークス

TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL <http://www.ymw.co.jp>
E-mail info@ymw.co.jp



楽器堂
GAKKIDO CORPORATION
www.gakkido.jp



いい音楽との出会いを大切にします

ピアノ 管楽器 弦楽器 ギターベース 打楽器 及び楽譜販売

楽器堂オーバサイオンモール高松店

高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL : 087-832-8016

楽器に関するご相談、何でも受付中です！



©BANAZO

指揮 松下 京介 *Kyosuke Matsushita*

香川県さぬき市出身。高松第一高校音楽科、昭和音楽大学音楽学部作曲学科指揮コース卒業。星出豊、樋本英一の各氏に師事。下八川圭祐基金、昭和音楽大学同侪会留学生奨学金を得、イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院、シエナ・キジアーナ音楽院で学ぶ。帰国後は小澤征爾、広上淳一、チョン・ミュンフン、G・カレッラ等著名な指揮者の下、新国立劇場、藤原歌劇団、東京二期会、サイトウキネンフェスティバル等で副指揮、合唱指揮を務める。2005年バルトーク国際オペラ指揮コンクール（ルーマニア）第1位、2007年ルイーダ・マンチネリ国際オペラ指揮者コンクール（イタリア）第2位を獲得。2009年、第1回香川県文化芸術新人賞を受賞。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、広島交響楽団等、国内の主要オーケストラを指揮。高松交響楽団第117回定期演奏会（2017年）に客演。また、かがわジュニア・フィル（KJO）の指揮者陣を務めている。



ピアノ 伏木 唯 *Yui Fushiki* 第4回高松国際ピアノコンクール3位

札幌出身。4歳よりピアノを始める。札幌藤女子高等学校、東京藝術大学を卒業。在学時にアリアドネ・ムジカ賞、卒業時に同声会賞を受賞。その後渡独し、ベルリン芸術大学、同大学修士課程を経て、現在は同大学国家演奏家資格課程に在籍中。2004年第28回PTNA G級銀賞。2010年第29回飯塚新人音楽コンクール第2位、第79回日本音楽コンクール入選。2014年ロケッタ国際ピアノコンクール（イタリア）第1位。2017年第63回マリアカナルス国際ピアノコンクール入賞。第61回ブゾーニ国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでに、多数のソロリサイタル開催するほか、招聘演奏でも多数出演。東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。2011年度（財）ヤマハ音楽振興会音楽支援奨学生。2016年度文化庁新進芸術家海外研修生。これまでに小熊倫子、浜田典子、北島公彦、青柳晋、バスカル・ドゥヴァイヨン、村田理夏子、ビョルン・レーマンの各氏に師事。



コンサートマスター 福崎至佐子 *Hisako Fukuzaki*

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本真理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチュフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞（文化功労）」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回（2011年）第23回（2014年）日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。2016年福山音楽コンクール「優秀指導者」受賞。平成29年度よんでん芸術文化功労賞受賞。



管弦楽 高松交響楽団 *Takamatsu Symphony Orchestra*

1951(昭和26)年8月、故 緒方益園氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2021年に創立70周年を迎える。これまで120回を超える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008年）、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・プラーナ（パレエ付き）」公演（2009年）をはじめ、オペラ・パレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）」、2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ（MCO）」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。